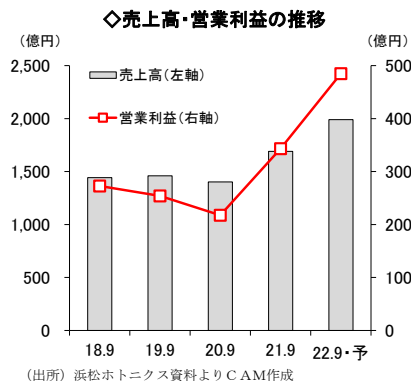


企業ニュース 浜松ホトニクス

(東証プライム : 6965) <https://www.hamamatsu.com/jp/ja.html> 作成者: 村上大志

光関連の電子部品・機器企業

「受光」と「発光」の両デバイスを扱う、光関連の電子部品・機器企業。受光では光電子増倍管やフォトダイオードをはじめとする幅広い光センサを、発光ではレーザーやLED、計測用ランプといった各種の光源を開発・製造する。創業当時の代表製品である光電子増倍管の世界シェアは約90%を誇る。そのほか、光センサをキーコンポーネントとしたイメージングシステムや測光システムなどの開発も行っている。中期経営計画(22.9~24.9期)では、売上高のCAGR(年平均成長率)6.3%、営業利益率20%以上の継続的な確保を目指す。21.9期のセグメント別売上高構成比は電子管38%、光半導体46%、画像計測機器13%、その他3%。



上期としては過去最高の売上高、営業利益を達成

22.9期・第2四半期累計(10-3月)の連結業績は売上高が1,005億円、前年同期比27%増、営業利益が281億円、同95%増。全セグメントで増収増益となり、上期の売上高、営業利益としては過去最高となった。電子管ではフローサイトメーターなど検体検査装置向けの光電子増倍管やシリコンウェハを高速・高品位で切断するステルスダイシング向けの光源が好調、光半導体では半導体製造・検査装置向けのイメージセンサなどの売上が拡大した。人件費や運賃・荷造費が増加するも増収効果により営業利益率は28%、同9.9ポイント改善した。

22.9期の会社計画は売上収益が1,990億円、前期比18%増、営業利益が485億円、同41%増。ロシア・ウクライナ情勢や中国のロックダウン、原材料や輸送コスト高の影響は軽微とのことで、外部マクロ環境が不安定な中、堅調な業績モメンタムを維持している。半導体製造・検査装置向けは23.9期まで旺盛な需要が続くとの見通しを示しており、今後も業績への貢献が見込めよう。医用・バイオ機器向けではコロナ特需の終了でPCR検査装置向けが減少しているが、X線CT用などの放射線検査装置向けの需要増と歯科用X線検査装置向けの回復が期待される。

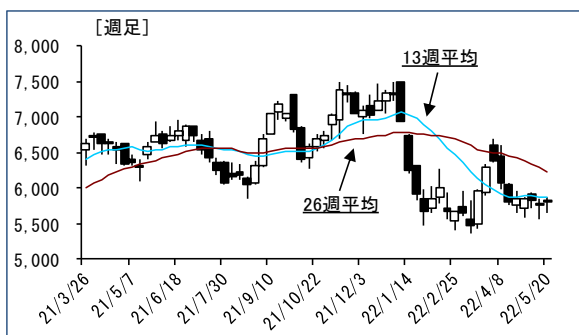
[株価動向・投資判断]

売上高の約70%を占める医用と産業向けはともに好調が続いている。3月に上方修正した上期計画を上回って着地しており、通期計画の超過達成も期待できよう。

<6965 ホトニクス 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高 百万円 (伸び率)	営業利益 百万円 (伸び率)	経常利益 百万円 (伸び率)	当期利益 百万円 (伸び率)	1株利益 円	1株配当 円
20.9	140,251 (▲4)	21,752 (▲14)	22,692 (▲14)	16,523 (▲17)	106.7	40.00
21.9	169,026 (21)	34,318 (58)	34,648 (53)	25,053 (52)	161.8	48.00
22.9 予	199,000 (18)	48,500 (41)	49,300 (42)	36,000 (44)	232.5	64.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価(2022/5/20)	5,800 円
年初来高値(高値日)	7,500 円(22/1/4)
同 安値(安値日)	5,360 円(22/3/8)
予想P E R(22.9予)	24.9 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,665.7 円
P B R	3.48 倍
予想配当利回り (1株当たり配当金年64.00円)	1.10 %
R O E(21.9)	11.2 %
発行済み株式数	16,505 万株